

住民協ひろば

4号

久木小学校区住民自治協議会 広報 <特別号>

2020年
保存版

【編集・発行】
久木小学校区住民自治協議会
逗子市久木 2-1-1
・発行日：2020年 11月 末
・発行部数：5600部

三つの小話

小話といっても、粋な話ではない。日常の生活のアンテナにひっかかった話である。

- ①小田原市では、この10年来祭り文化が育んだ強固な相互扶助機能という地域特性を生かし、行政と自治会、社会福祉協議会等が連携して、地域課題の解決に取り組んでいる。
- ②厚労省の資料に地域自治システムの表があり、地域自治体の下に住民協があり、その下に自治会・町内会があり、その下に班長会が明記されている。
- ③全共闘世代（72歳）が編集する地域活動応援法の標語は「はじめる！人がつながる 社会が変わる」。

———祭り文化が育んだ地域特性を生かし。———

ここには、祭りを核とする地域コミュニティのネットワークが存在する。
それを認識し、それをベースにして行政が旗振りを展開した。

———その下に班長会が明記されている。———

この事は、ごく普通なことなのに、正直びっくりした。住民協が自治会・町内会にあまり視線を向けていないように、自治会・町内会も班長会（班長）に視線を向けていないのが現状である。しかし、地域コミュニティの核になるのは、地域に密着している班長会（班長）である。この認識は、発想の展開につながる。

———「はじめる！…」———

はじめる！手を挙げる！これがスタートである。これにより、確かに、人がつながり、地域が変わっていく。人材とは、はじめる！人であり、手を挙げる人である。と、いえるかもしれない。人材発掘は難しい。でも、人材を浮上させる雰囲気づくりは可能だとおもう。来年、久小校区住民協は5年目を迎える。この三つの小話は「けっこう使える。」と、自画自賛している。

久木小学校区住民自治協議会 会長 田倉由男



自分たちでつくる暮らしやすいまち

久小校区住民協は各地区で活動する自治会や組織、個人をつなげ、支えながら、地域の問題解決と活性化を図っています。

久木小学校区の減災・防災 特集



住民協
Kさん

音成さんこんにちは！久木小学校区に特化した減災地図をお届けに上がりました。

わぁ、防災倉庫の位置や、井戸、AEDのあるところまで載っている。避難経路もちゃんと道を選んで指示されています！やっぱりもう本気で災害に備えないとですよ。Kさん一度相談しても良いですか？

皆さんも一緒に災害への備えを考えて見ましょう！

あなたも一緒に考えてね。



オトナリ ヒサコ
音成 久子さん

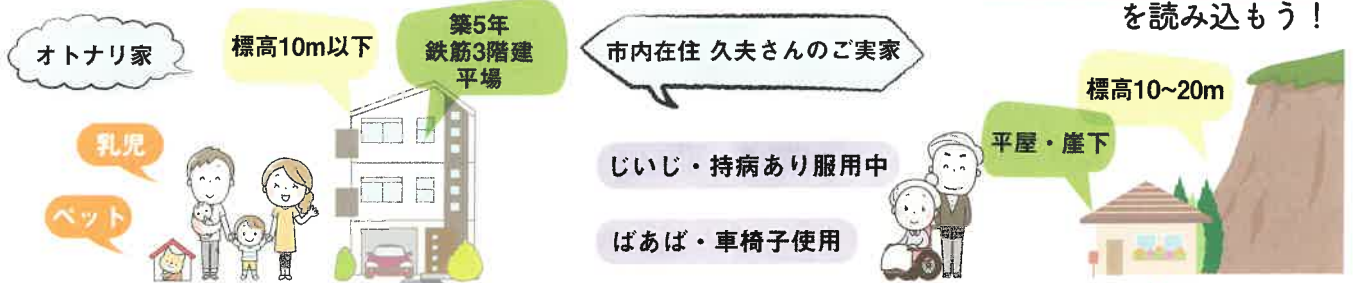
オトナリ ヒサオ
音成 久夫さん

久木小学校区住民自治協議会では、防災や減災に関係した地域の施設や地理情報を記載した減災地図を作成しました

オトナリ家、本気で災害に備える！の巻

災害に備えるには、ある程度予測のできる風水害と全く予測ができない地震をしっかりと分けて考える事が大事！そしてそれぞれについて自分の家族の特徴をふまえ **久小校区減災地図**

を読み込もう！



風水害

実家は崖崩れが心配。 早めに、うちに来てもらおう！
ベビーに犬、うちは **在宅避難** だな。

まずは自宅内の安全な場所への避難（垂直避難など）、親戚知人宅への避難を検討しましょう。

地震

耐震補強 しなくちゃね。

大津波がきたら
さて、裏山を どうやって登ろうか。

Check!

備蓄は
大事!

家族の食料と飲料水・最低三日分
簡易トイレがあると安心。オムツ、ミルク、お薬の備蓄も忘れずに！

オトナリ家
タイムライン

発災時シミュレーション

- じいじ・ばあばと電話連絡
- 3 日前
- **久小校区減災地図**の確認
- 持ち出し品の確認・準備
- じいじの薬確認
- 避難のタイミングも事前に検討
- 携帯電話の充電
- 2 日前 ~ 半日前

避難の
準備

自宅の
2F3Fへ
避難

避難準備情報 警戒レベル3

- じいじ・ばあば家に来る
- 避難勧告



風水害時の避難所は市職員が小学校などと連携して開設します。避難所はまず、久木小学校体育館、逗子アリーナ！その後、状況によって拡張していきます。

どこで被災しても身を守る行動がとれるように普段から意識しておきましょう！

津波 **高台・津波避難ビル** に避難

火災 **一時避難所** へ

煙を避けて **広域避難場所** へ

揺れが収まったら居合わせた人と情報交換を！
自分の家で生活できるかどうか難しい判断を迫られます。

自宅に住めない場合は震災時避難所 へ！

ブレーカーオフ！水道ガス元栓閉！
備蓄品を持ち込める人は持参！

避難情報は防災行政無線又は

050-5533-8199 又は で確認

オトナリ家、共助を学ぶ！の巻



こう考えると突然起きる地震はやっぱり不安ですね。
両親の安否をすぐ確かめられるかどうか…。



そうなんです地震発生時は特にご近所の助け合いが大事になるんです。
普段の交流そのものが災害への備え なんです。

ご近所清掃



合唱サークル



回覧板



井戸端会議



久子の井戸端会議もその為にあったのか！納得。



地震の後、もし自宅に戻るのが心配な場合は避難所に移るとして、
市役所の人すぐに来られるのかしら？



そこが問題！台風の際は前もって避難所を開く準備ができるけれど、
地震の場合、市の職員による避難所の開設は難しいと考えましょう。だから
大きな地震が起きた時の避難所は避難してきた人達が主体となって開設・運営
するんです。そのために毎年 **避難所体験訓練** が実施されているんですよ。

#久小校区避難所体験訓練に参加してみた！

久木小学校集合！ 防災倉庫から『行動手順書【本部】』を取り出すところからスタート！

本部・手順書に従って
班決め

食料物資班



情報班

★各班それぞれに行動手順書が用意されています！！
★班長さん他必要な役割を参加者で積極的に担います！！

被災者管理班

施設管理班

救護班

ボランティア班



受付風景



マンホールトイレ設置中！



私たちも避難所体験訓練に参加しなくっちゃね。



コロナウィルス感染拡大防止のため、2020年度避難所体験訓練は中止となりました。

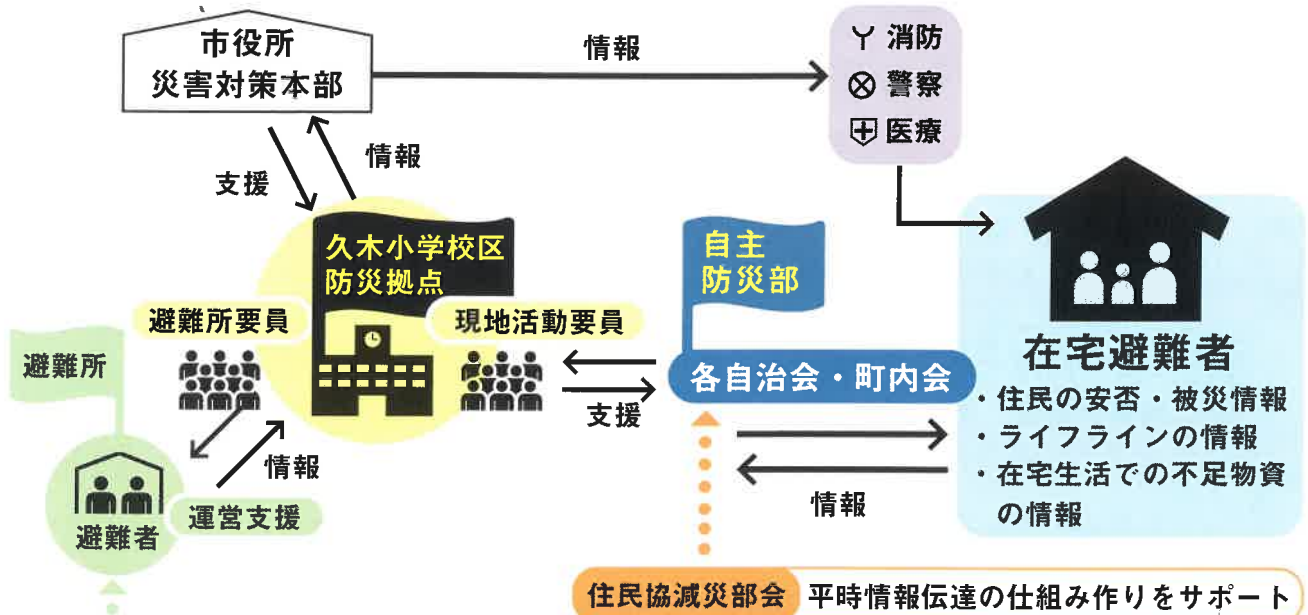
尚避難所はマスク・石鹸・体温計の持参が呼びかけられています。



地区防災拠点設置に向けて！の巻

さあ次はこれを見てください。現在改定中の逗子市地域防災計画では、震度5強以上の地震が起きて、市が被害の規模に応じて必要と判断した場合に、市役所の災害対策本部と各地域を新しくつなげる **地区防災拠点** の設置を検討しています。

これによって地域の共助と公助がつながる道筋が、より明確になります。



避難所準備委員会



- 避難所開設運営のマニュアル作り
- 防災訓練の実施
- 久小・久中防災倉庫の点検



いやあ、正直、こういう市の取り組みも地域防災の考え方も、全く知らなかったな。
 回覧板もろくに読まずに回していたよ、反省。

自治会、町内会からの情報ってとっても大事なのよ。
 地域の取り組みって知らない気がつかないものなのよね。



上の図でもわかる通り、各自治会町内会の自主防災部はとても重要な役割を担っています。特に市では「逗子市避難行動要支援者避難支援計画」を策定。避難行動に支援の必要な人について、本人の同意に基づき名簿を作成し、平時から地域の自主防災部と情報共有しているんです。ただ、その要支援者への取り組みには、課題が少なくないんですよ。各自主防災部の方に、その活動や悩みをうかがっています。久夫さん久子さんも一緒に考えて下さると嬉しいです。



共助と公助を繋ぐ自主防災部の巻



各自主防災部の声です。

山の根自治会

自治会活動の防災と自主防活動の間には役割の微妙な違いがあります。自主防は防災倉庫の管理、避難経路の整備がその中心。自治会の防災部は住民への減災意識の向上のための啓発と実践。つまり自主防はハード面を防災部はソフト面を受け持っています。かといって二つはバラバラの活動ではなく隔月の防災会議を通じて活動内容は共有されます。

避難行動要支援者避難計画も自治会活動の中に入ります。要支援者把握と支援計画は住民全員の平素の生活と密着しています。いきおい、福祉、つまり「お互いさま」活動と連動し、見守りと生活支援を活発に進めることが減災にとっての要になります。また、役員班長の月例会では、減災を内包する幅広い地域福祉啓発ワークショップに取り組んでいます。その際、在宅避難者への物資運搬計画を練ったり、自分の班の一時避難場所を把握・共有するのと並行して、一見減災活動とは無縁のような「認知症サポーター講座」を必ず設けます。自治会や自主防の活動に無駄な事は何もありません。より良い地域作りの為に住民が手と口を出し合える地域にしていきたいですね。

久木連合町内会

久木連合町内会に自主防災部を設置し防災活動を実施している。町内に10箇所ある防災倉庫内備品の管理・点検、避難所準備委員会への参画、各防災訓練等を実施。大規模災害時には、久木神社社務所に災害本部を設置し、総勢36名の情報班・支援班を立ち上げる。

地域住民の安否確認、被災状況の把握、防災備品の貸し出し、会員等の在宅避難者などを確認し地区防災拠点に情報を伝達する。避難行動要支援者は地域に会員だけでも105名おり、個人情報開示のハードルが高いが、所在地の確認は常時行なっている。町内の被災者も避難所へ避難をするので、避難所の円滑な開設に協力していく。

大切なことは、普段から隣近所で情報交換を行ない緊急時に助け合う体制を作っていくことです。

1600世帯の会員全ての把握は難しいので平時から各自で大災害への備えをお願いいたします。

ハイランド自治会

ハイランド自治会では、今年度より、自主防災部を、防災単独の縦割り組織から自治会各部と融合した機能的な組織に改編しました。この防災組織では、ハイランド自治会と一体となって防災倉庫の備蓄の見直しや、自治会だよりに『暴風対策ガイド』を載せる等の啓発活動、危険街路樹の整備や避難所とされている自治会館の災害対応を市と調整する等の外部交渉を担っています。

避難行動要支援者への取り組みは、全体を5地区に分け、地区ごとの担当者を決めて市の帳票である『個別支援プラン』を整備中ですが、実活動としては、高齢者見守り隊の活動の中で、声掛けやご家族などの連絡先の確認などにとどめています。

ハイランドは災害に対して比較的 안전한地区です。避難には在宅避難を選択する住民がほとんどになると思われます。自主防災部としては、自助・共助・公助の適切な役割分担を念頭に置き、共助として実行性・実効性のある活動計画の立案と実行に努めています。

山の根会

山の根会の現在の会員世帯数は86世帯になり地域の8割以上の方が加入されています。自主防災組織の体制は6名の役員で自治組織体制と並行して責務を担います。災害時には4人の班長さんが中心となり4つの区割りに編成され情報収集等を行います。

山の根会ではいままでに様々な訓練も行っていました。水消火器を使った消火訓練、緊急通報訓練、救命（人工呼吸・AED）の訓練、津波避難訓練では実際に6階のマンションの屋上まで徒歩で避難等地域の方々とも日ごろから防災・減災の啓発に努めております。

避難行動要支援者の方々に対しては、近隣の方の日ごろの見守りの中で親交を深め信頼関係の構築に努めております。

山の根会は小さい地域ではありますが、近年は分譲された新築住宅も増え新たな方々とも共に更に自治活動に努力して参りたいと思います。最後に防災・減災については繰り返しになりますが信頼の構築がカギと考えます。日頃のかかわり合いを大切に相互に助け合える環境作りが自治組織の使命と考え今後も努力して参ります。

山の根親交会

現在、当会自主防災部は、役員6名、班長19名で編成され、毎月一回の資機材の点検と備蓄水道水の交換、年一回の避難路歩きを実施しています。

避難行動要支援者名簿に登録された方々には、登録時に聞き取り調査を行い、その際必要な方には一応の支援体制を構築したが、その後現時点まで特段のフォローはしていません。

防災活動の活性化は大きな課題だと考えていますが、現状手つかずにいるというのが実態です。防災を担当してくれる人材（特に若手）の掘り起こしと確保の必要性等が話し合われていますが、そのためのアイデアと行動を起こすエネルギーがありません。過去には防災訓練を実施しても、参加者が数人で訓練にならなかった経緯があり、本来実施すべき訓練も実施できていないのです。

地域の防災・減災について思うこと 山の根 鈴木為之

長らく地域に住み、20年近く地域の諸事に関係してきました。地域の防災・減災に重要なことは何かと問われれば、私なりに幾つかの答えが出てきます。

先ずはよく言われる「地域を知り、人を知る」。空き巣は必ず下見をしてから侵入する。逃げ道を確認しているのです。戦の前には必ず偵察をする。敵を知り地理を知って、戦いに勝ち損害を最小限にするためです。非常時に頼りになるのは向こう3軒両隣、互近助の関係、ご近所の人を知っておくことの大切さです。

次は、ご近所の情報をいかに迅速に拾い上げて、地域で解決に結びつけていくか。今、発災時地域をまとめていける組織は自治会・町内会（或いは自主防災組織）しかありません。自治会・町内会の役割は地域の情報を迅速・的確に取得して伝達していくことにあり、そのためには特定・少数の役員に依存せずに、多数の住民の方々が参加する組織力が、将に問われています。次は、行政が地域ごとに設立する地区防災拠点。この組織は地域の情報をワンストップで受け止め、対策に結び付けるという組織で、初めて公助（行政としての支援）が地域と直接結びつく道筋が出来ました。地区防災拠点は地域から確な情報があって初めて活動ができます。この意味でも自治会・町内会の組織力が問われるのです。

自治会・町内会の組織力は、日常の活動から生まれるものであり、集会、話し合い、広報誌、掲示板による広報、サロン活動等、極めて地味な着実な日常のつながりの積み上げによって、はじめて出来上がっていきます。

ルポ

聖和学院

去る8月29日聖和学院講堂にて

『地域の防災・減災プロジェクト研究発表会/懇談会』が開催され久木小学校区自主防災部及び住民協減災部会の12名が招待されました。生徒さんの研究発表を聴き、今後「もしもの時」の協力を備えて改めて交流を深めました。



住民協では防災の為にも普段の暮らしの中で住民の交流が活性化するような仕掛けを考えています。



久木小学校区 住民自治協議会 役員一覧

会長:田倉由男	副会長:小林寿志	理事:山崎徳次郎	理事:東浩司	事務局長:石井達郎
	副会長:海野和生	理事:勝山吉久	理事:中村恭良	書記:森戸久朝
	副会長:龍村敦子	理事:石井和夫	理事:金子春夫	会計:鈴木為之
	副会長:龍崎成人	理事:山下隆文	理事:門脇茜	
	副会長:森田宗一	理事:井上亮子		監査:増子俊雄

減災部会

活動を始めて2年経過しました。当初から減災部会の目的と役割は、以下の通りです。目指すものは『互近助』・向こう3軒両隣の助け合いの気持ちをもつ小さなコミュニティを作ること。そのために①地域を知る②人を知る（地域に住む人、支援や相談する人される人）です。昨年はまず、地域の住民の方々と一緒に町歩きをおこない、災害時に役立つような減災地図を作成し、全世帯に配布しました。これを基にご自分の住む地域だけでなく、近隣地域を歩き災害時の対応を考えてみてください。皆さんの地域の自治会・町内会・自主防災組織は住む町が安心・安全であるよう、様々な活動をしています。福祉や環境、防犯・防災に関わるものです。今特集号は防災・減災への取り組みをわかりやすく伝えています。減災部会はこの取り組みを久小校区全体が一体となって進めていけるよう、各自治会、自主防災組織に働きかけ、同じ方向でこの地域がより住みやすい場所になるよう活動していきます。住民の皆さんの防災への関心は、このところ頻発している大規模災害によって高まっています。災害による被害は過ぎ去ったことだと思わず、常に頭にとどめおいて下さい。**金子 春夫**

ふれあい部会

2年の歳月を費やして、ふれあい部会は何を作り上げたのでしょうか。高齢者の健康を考えるプログラム？支えあい有償サービスの仕組み？いえ一番の成果は自肅前毎月の部会集会で「あーだこーだ」とある時は和やかに、ある時は喧々諤々と語りあって、1連合町内会4自治会の地域性や住民性の特徴をとことん味わった「ふれあい」の楽しさでした。「ふれあい部会」とはなんと普遍的な部会名をつけたかと、今になって命名者に感謝です。このふれあいの名のもとにつながりを意識したプログラムを展開し始めました。2月の「雑巾縫いサロン」7月の「子どもとの雑巾刺繍」はふれあい部会だけにとどまらない各部会とからみあいながら何かできる！と思えるイベントでした。これからは「健康」、「サービス」の軸を大切にしながらも、部会の枠を超えた住民同士の「ふれあい」を意識した地域づくりの提案をしたいものです。

龍村 敦子

拠点部会

あ～あ！どうしてコロナ！どうして今年！拠点部会も今年は頑張ろうと思っていた矢先だったんですよ～！昨年度、住民協から立ち上がった『久木会館活性化プロジェクト』の成果で、会館収益率up！効率up！よしこれからだ！『住民交流拠点』目指して、会館祭りするぞ！…と思っていたのに～

（断念・涙）。でも泣いてばかりじゃつまらない、「小さいことはイイことだ！」ってな勢いで、始まったのが屋外企画『久木朝市』。今年は7・8・11月と3回開催、家庭菜園愛好家のお野菜や久木の個人起業家さんの生産物が並びました（表紙写真参照）。コロナ禍中ですが、いやこんな時だからこそ、日常の延長、ご近所の延長、仲間の延長、など言えば内輪の楽しみを、小さめに、地道に、久木の拠点で応援したいと思っています。久木会館を活用する地域交流イベントについてアイデア募集中！ぜひご連絡ください！

Hisagi.kyotenbukai@gmail.com 井上 亮子

子ども部会

うーん、コロナ。えーん、コロナ。子ども部会で毎月開催していた「みんなの食堂」を楽しみにしていた方が多いと思います。感染防止のため、今年2月から休止しています。親子や高齢者、スタッフの皆さんが久木会館に集まり、総勢100名以上で食卓を囲む姿はまさに三密。地域の多世代交流と居場所づくりで大きな役割を果たしていたと思うのですが、飲食を伴うイベントが制限されているなかで再開の目処が立ちません。久木小学校地域はPTAや子ども会の活動が盛んであり、住民協の子ども部会はPTAや子ども会がやれないことを行う方針でした。そして、PTA、子ども会とも行事が中止になっている今こそ、子ども部会の出番！と言いたいところなのですが・・・感染が落ち着いたら、小学校・中学校とも連携しながら活動を進めていきたいと考えているところです。

東 浩司

久木会館

新型コロナウイルス感染防止の観点から久木会館は3月・4月・5月と休館いたしました。6月より、新型コロナウイルス感染防止の対策として、利用室の定員50%減使用、利用者の連絡先記帳、利用室の換気、利用室での飲食禁止、マスク着用、手の消毒などを実施し再オープンしました。再開館後も多くの利用者に利用して頂き、会館収支も長期間休館の影響もありますが、各種節約し対策を執っています。現在会館が実施していることとして、情報の発信場所となるように掲示板を充実しました。調理室も不要な各設備を撤去し、今後使用しやすい施設の検討を行なっています。昨年実施したパブリックビューイングで、ラグビーワールドカップを会館で観戦し、大変盛り上がりしました。今後もスポーツ観戦などの企画を計画いたします。また、久木会館は、大地震や風水害の避難所となっており、現在会館玄関前は駐車禁止となっております。ご協力をお願いいたします。今後も久木会館が地域の拠点となるように進めてまいります。

小林 寿志

久木会館よりお知らせ

現在久木会館では会館運営や当番を担っていただけるボランティアをさがしております。詳しい内容は一度ご来館ください。ご連絡お待ちしております。



FLAG Zushiは地域の複合施設です

【CAFÉ】Open 平日(火・水・木・金) 10:00~16:00

【宿泊】6人用/4人用/2人用 (お子様含む)

【ミーティングルーム】1時間800円

【日替わりBAR】17:00~22:00

【FP相談】初回相談無料!

【料理教室】※詳細はHPへ→

所在地: 山の根1-3-17

TEL:046-845-9293

HP:<https://luna-house.com/>



安心・安全で美味しい豆腐を作り、皆様の健康に貢献します。

とうふ工房とちぎや

〒249-0001 逗子市久木 3-3-36
TEL 046-873-1112
営業時間 9時~18時半
定休日 毎週水曜日



経済産業大臣許可互第 3022 号
二葉冠婚葬祭互助会



二葉会館

真心をこめてお手伝いします

(有) 二葉 365日24時間受付
逗子市久木1-2-6 046-871-2360

朝日新聞サービスアンカー

地域生活 応援企業 **ASA 逗子・葉山**

〒249-0001 逗子市久木 1-1-11
TEL 046-871-2368 / FAX 046-871-1620

取り扱い紙 朝日新聞、日経新聞(小坪地区)、神奈川新聞、産経新聞、東京新聞、各種スポーツ新聞

●折り込みチラシのご依頼もお待ちしております

読売センター逗子

〒249-0004 神奈川県逗子市沼間 3-8-18
TEL 046-871-3653 FAX 046-873-9550

115年以上の歴史 世界最大の部数

読売新聞

【取扱紙】読売新聞・日経新聞・日経産業新聞
神奈川新聞・スポーツ報知
読売KODOMO新聞 その他



河野新聞逗子販売所

地元発着のバス
ツアー好評です



逗子市逗子 1-7-1



TEL: 0120(17)2885

FAX: 046(872)0628



逗子で創業 130 余年。心地いい暮らしをつくる
新築・リフォーム・ガーデン・家具

株式会社キリガヤ

☎046-873-0066

逗子市山の根 1-2-35

<http://www.kirigaya.jp>



仲間をつくる 美しくなる 護身 健康長寿 修行 やせる 心を鍛える 初心者歓迎 礼儀作法

合気道久木道場

毎週金曜 19:00 から 久木中学校 体育館 2階 格技室

TEL: 090-4019-1334 (野口)

WEB: <https://zushi-aikido.jimdo.com/>

ストレス解消 介護予防 体を鍛える 生涯武道 有段者になる 老若男女 自己研鑽

焼きたてパンを朝食に

Opens

逗子市久木 3-11-2 駐車場 3台有り

定休日: 水・木曜日

営業時間: 8時~18時

売り切れの場合閉店ございます

☎046-872-1352



編集後記

本号の編集を完了できたのは、世代・文化・趣向の違いがあっても辛抱強くミーティングを重ねてくださった編集部皆さんの愛情と、また就学前の子どもを抱えた生活の貴重な時間を削りだして、私のテキストを素敵な紙面に仕上げてくださいましたYさんの技能と誠意、そして普段から家事を完全に分け持ってくれている夫の理解と、時に夕飯よりバドミントンよりPC作業を優先する母を横目に自分の時間を気ままに過ごしてくれた子どもの自立性のおかげです。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。井上亮子